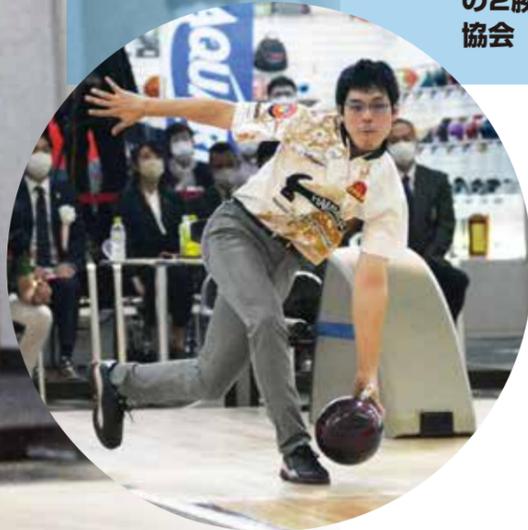




コカ・コーラカップ2022千葉オープン

斉藤琢哉 初Vから6年で両目開く

コカ・コーラカップ『2022千葉オープン』は、プロ132名、アマ32名が参加して10月21日から3日間、北小金ボウル(千葉県松戸市)で行われた。例年なぜかレフティーの活躍が目立つ千葉オープンだが、今年も初タイトルを2016年のこの大会で獲得したレフティーの斉藤琢哉(48期・伊勢原ボウリングセンター)が、6年ぶりの2勝目を挙げた。(主催:千葉日报社/千葉県ボウリング場協会 特別協賛:コカ・コーラボトラーズジャパン(株))



◀▲「あの場面でストライクを持ってこれる人が優勝できるというのを散々見てきた。だからすべてをあの1投にかけた」と斉藤。その10フレ1投目は完璧なストライクに

斉藤のコメント

初タイトルもそうだったし、千葉オープンにはずっといいイメージがある。前日練習でも、自分のボウリングさえできれば上位にいける手応えがあった。力まずに大事に投げることを心がけたが、準決勝の2個目の300のあとは、使っちゃいけない部分の集中力も使ったせいか、もぬけの殻という感じで、本当に疲れ切ってしまった。育児もあってなかなかボウリングに集中できなくて、今年は結果も出ていなかった。谷合プロも同じような状況で、東海オープンで「現役引退かな」という話をした二人での優勝決定戦だった。東海のあと妻にもそんな話をしたら「家のことは私がやるから」といってもらって、それ



▲大活躍の今年デビュー組のひとりの大久保「右レーンの手前のオイルがなくなって、そのアジャストができなかった」

今年はレフティーの活躍が目立つが、この大会も準決勝6G目と、8G目にパーフェクトを達成した斉藤琢哉がトップシード、2位に今年の新人・大久保雄矢、4位に太田隆昌と3名が決勝ステップラダーに進出、右では谷合貴志が3位、5位で山中悟が進んだ。

決勝は変化してきたコンディションを前に、レフティーが練習ボールから対応に苦戦する姿が見られたが、山中との4位決定戦の打ち合いを280:258で制した谷合が、3位決定戦も278を叩き、151の大久保を圧倒して勝ち進んだ。

ビッグゲーム連発で勝ち上がった谷合に対し、「レーンをまったく読めていなかっ

た。だけど250は打たないと勝てないと思ったので、1フレは目一杯気合を入れて投げたら、しょぼい7ピンでメンタルをやられた」と斉藤。さらに3



▲「同期が活躍しているので自分も勝ちたかった」と谷合。決勝ステップラダーは完璧な内容だったが、最後に勝利の女神に見放された

フレは④⑩と割れてオープン。谷合が1フレから快調にフォースと伸ばした時点では、勝負はあったかに思われた。

盤石に思われた谷合だが、5フレは④⑥⑦のスプリットでオープン。「レーンの変化を感じて、次の7フレはうまくアジャストしたと思っただけ⑩ピンタップ」。それが逆転ドラマの始まりとなった。谷合の9フレは「⑩ピンを飛ばしにいったけど…」無情のビッグフォー。8、9フレをダブルの斉藤は、それを見て「一気にスイッチが入った。でも焦って投げ急ぐ癖があるので、リセットをかけて間を取ってからしっかり投げた」投球は、優勝を呼び込む会心のストライクとなった。

からはひたすらボウリングに時間をつぎ込んだことがこの結果につながった。

優勝ボール: コロンビア300(レジェンドスター)メッセンジャーパワーコア・パール



▲左から優勝・斉藤、2位・谷合、3位・大久保、4位・山中、5位・太田、ベストアマ・江端重樹選手(アイキョーボウル)

「ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP」 4年ぶりの開催が決定!

コロナ禍で3年間中断していた「ラウンドワン・グランドチャンピオンシップ・ボウリング」2023年大会の開催が決定し、10月24日午後、都内新宿区のジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエアにて記者発表会が行われた。

同大会はJPBA、JBC、NBFのプロ・アマ3団体が共催し、株式会社ラウンドワンが総額3000万円の賞金を供出して開催される“国内最強ボウラー決定戦”。男女及び年代別

の全6部門制で、各団体の決勝大会(JPBA=23年10月13・14日、ラウンドワンスタジアム堺中央環状店、JBC=同9月8・9日、ラウンドワンスタジアム京都伏見店、NBF=同10月6・7日、ラウンドワン南砂店)及びファイナル(同11月11日、ラウンドワンスタジアム堺中央環状店)では、アマチュアの入賞者にも賞金が授与される。

また、今回は従来どおりの集合予選会(JPBA12回、JBC25

回、NBF16回)に加え、JBC・NBF両団体はラウンドワンLIVEシステムを利用したオンライン予選会と、いつ、どのラウンドワン店舗からでも参加できるフリータイム予選会を導入。会員ボウラー以外にも門戸を開放し、競技人口の拡充を図る。

予選会の日程・会場は現在調整中。本紙でも次号以降で改めてお伝えする予定だが、年内に各団体の公式サイトにて発表される詳細をご確認の上、ふるってご参加ください。



▲記者発表会に出席した各団体の代表。前列左から北川薫JBC会長、谷口健JPBA会長、白石雅俊NBF理事長と河津瑞音選手、後列左からJBC・斉藤翔選手、JPBA・川添雅太、丹羽由香梨両プロ。それぞれ4年ぶりに開催される“国内最強ボウラー決定戦”への期待や意気込みを熱く語った